World Health Organization
Centre for Health Development

Press Release
2015 年 10 月 1 日

本プレスリリースは WHO（世界保健機関）が 2015 年 9 月 30 日に配信したプレスリリース「WHO: Number of people over 60 years set to double by 2050; major societal changes required」の日本語抄訳版です。内容や解釈につきましては原文が優先します。

報道各位

2050 年までに 60 歳以上の人口は倍増、いま、抜本的な社会変化が問われている

（2015 年 9 月 30 日ジュネーブ ーWHO（世界保健機関）が国際高齢者デー（10 月 1 日）に発表する WHO 初の「高齢化と健康に関するワールド・レポート」より）

医療の進歩によって、人びとは長生きする時代となりました。しかし、2050 年までに 60 歳以上の人口が倍増することが予測され、それを支えるためには抜本的な社会の変化が必要とされています。

マーガレット・チャン WHO 事務局長は「最貧国を含む多くの国で、人々は長生きするようになりました。しかし、長生きだけでは十分ではありません。長い人生を意味があり、尊厳あるものにしなければなりません。それを実現できれば、高齢者のみならず、社会全体にとっての利益につながるのです」と語っています。

長生きが、“健康で”長生きとは限らない

現代の高齢者は一世代前の高齢者より良好な健康状態だと考える人が多いかもしれませんが、本レポートではそのエビデンスはほとんどないことを示しています。「『いまの 70 歳代は以前の 60 歳代だ』とまでは言い切れないことが分かりました。しかし、可能性はゼロではありませんし、そうなっていくべきでしょう」とジョン・ビアード WHO 高齢化とライフコース担当部長は語ります。「長くて、かつ、健康な人生を送る高齢者もいますが、それは社会の中でも富裕層であることが多い傾向にあります。逆に貧困国に住む人や、高齢者が活用できるリソースや機会が乏しいような場合、健康状態は悪く、健康に関するニーズを多く抱えている傾向が見られます」

本レポートでは 高齢者が社会との関わりを保ちつつも、健康の悪化を招く不平等の蔓延を防ぐ政策を政府が推進するように求めています。

「高齢化」は社会にとって貴重なチャンス（機会）

本レポートでは「高齢者は他人に頼る」「高齢者はか弱い」とする一般なステレオタイプをはっきりと否定しています。また、高齢者が果たしている社会への貢献が過小評価されていて、逆に社会に与える負担が過度に強調され、大げさに取り上げられていることを指摘しています。そして、高齢人口の特徴は実に「多様である」ことであり、介護やサポートが必要な層もいる一方で、家族や地域、社会全体にさまざまな形での貢献を果たしている層がいることを強調しています。その高齢者の貢献と、高齢者に必要とされる医療、介護、社会保障のための投資を比較した場合、はるかに貢献のほうが上回ることを示しています。そのため、政策としてもコスト削減の努力をやめ、高齢者の活動を支える投資に注力していくことが重要だとしています。

そして、女性の役割についてです。高齢者の過半数が女性であり、また同時に女性が介護の役割を担うケースの多い状況があります。将来を考えると女性の高齢化について、もっと認識

を深める必要があります。そして、高齢期のみならずライフコース全体を通して女性の健康を確保していくことが必要です。

明るい未来がそこに

本レポートでは、高齢化と高齢者に関する社会的通念を根本的に変えるための 3 つのアクションを提示しています。これらのアクションを実行することによって、高齢者の新しい生き方を創出できると考えています。

一つ目が高齢者にとって住みやすい環境を整えることです。33 カ国の 280 都市が参加する WHO のエイジ・フレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）のグローバルネットワークが良い例となるでしょう。

二つ目には高齢者のニーズに合った保健システムの再編、調整があげられています。これは急性疾患への対応を重視してきたこれまでの体制から、高齢者に多い慢性疾患に対応する体制へのシフトを意味します。在宅ケアやコミュニティ密着型のケアモデルが求められます。

そして三つ目が、介護システムの開発です。政府は不適切な急性期治療を減らし、高齢者が尊厳を持って生きられるよう長期介護システムの策定に取り組む必要があります。また、家庭では家族は協力して介護に取り組み、女性を開放してもっと社会で活躍できるよう支えるべきです。

「イノベーションこそが社会や制度の変革の礎となります。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を実現することで高齢者の健康と、高齢者を支える仕組みづくりを叶えることができると考えます」と WHO 神戸センターのアレックス・ロス所長は話します。WHO 神戸センターは新長期計画の元、日本で得た教訓を礎に「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)」「イノベーション」「高齢化」を新しい研究課題に据え、高齢者のニーズに合致した制度、統合的な保健システム、社会ケアシステムの実現のための社会的イノベーション、制度的イノベーション、技術的イノベーションについて研究を進めていきます。

（WHO 神戸センターは、これまでに各国で得られた先進事例やモデルケースを発表し、議論を深める WHO グローバルフォーラム「高齢者のためのイノベーション」を 10 月 7 日から 9 日まで神戸市にて開催します。）